

〈適切な栽培管理により安全安心で、低コスト・高品質な一等米作りに努めましょう〉

JA東とくしま農業振興対策部

図1. 収穫適期の籾の黄化状況

農薬散布時の飛散注意

〈農薬・肥料等の散布時は、隣接圃場・近隣住民に配慮し行いましょう。〉

雑草防除

〈初期除草〉  
○投げ込み剤  
・ゴウワンDLジャンボ 700g/10a (田植え直後～9日)  
・ジェイフレンドジャンボ 400g/10a (田植え後5～12日)  
・ディオールジャンボ 400g/10a (田植え後3～12日)  
  
○粒剤  
・ジェイフレンド1キロ粒剤 1kg/10a (田植え後10～15日)  
〈主な雑草以外ではイボクサ、クサムネ等に対して効果が高い。〉  
・ディオール1キロ粒剤 1kg/10a (田植え後10～12日)  
  
○フロアブル剤  
・エンペラーフロアブル 500ml/10a (田植え直後～12日)

〈その他除草〉  
○藻類、表層はく離 発生時  
・モゲトン粒剤 2kg/10a (収穫45日前まで 3回以内)  
・モゲトンジャンボ 1kg/10a (収穫45日前まで 3回以内)  
  
○キシウスズメノヒエ (よばい草)  
・クリンチャー1キロ粒剤 1kg/10a

【ワンポイント】キシウスズメノヒエ (よばい草) 対策  
稲刈り後にラウンドアップマックスロード50倍を発生している場所に散布する。  
(またはデゾレートA(水溶剤)、デゾレートAZ粒剤)

※除草剤散布にあたっての注意

○湛水散布にあたっては、水の出入りを止めて、湛水状態(3～5cm)で均一に散布し、散布後3～4日程度は湛水状態を保ち、散布後7日程度は落水、掛け流しはしない。  
◎強風時の散布は避ける。  
○梅雨時など、散布後に多量の雨が予想される場合は、使用を避ける。

〈中後期除草〉  
○オモダカ、ホタルイ等の多年生雑草の発生時  
湛水散布：サンパンチ1キロ粒剤 1kg/10a (田植え後15日～ノビエ3.5葉期、収穫60日前まで)  
湛水散布：レプラスジャンボ 400g/10a (田植え後14日～ノビエ3.5葉期、収穫60日前まで)  
  
○イネ科以外の雑草発生時  
・粒状水中MCP 3kg/10a (湛水散布)  
※幼穂形成期前(6/15)までに使用。  
※平均気温20℃以上で使用。

【ワンポイント】カメムシ類対策の草刈り

出穂10～15日前までに水田周辺の畦畔や堤防の雑草の草取りを行う。刈り取った雑草は放置するとカメムシ類のすみかとなるので、集めて処分する。  
(出穂直前の草取りはカメムシ類を水田に移動させてしまうので注意)

病害虫防除

		5 月		6 月		7 月		8 月	
発生時期	病害	苗立枯病 ばか苗病		黄化萎縮病		葉いもち病・紋枯病		穂いもち・もみ枯細菌病	
	害虫		イネミズゾウムシ・ジャンボタニシ					カメムシ・ウンカ・ヨコバイ ツトムシ・コブノメイガ	



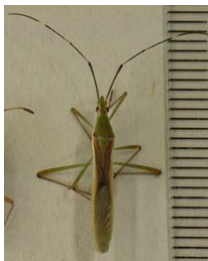
イネクロカメムシ  
(体長約10mm)



トゲシラホシカメムシ  
(体長5～7mm)



ホソハリカメムシ  
(体長9～11mm)



クモハリカメムシ  
(体長16mm)

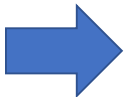
基幹防除

いもち病・イネミズゾウムシ・ウンカ類・ニカメイチュウ等

ビルダーリディア箱粒剤 50g/箱  
(移植当日)

ブーンレパード箱粒剤 50g/箱  
(移植当日)

デジタルミネクト箱粒剤 50g/箱  
(移植3日前～当日)



リンバー粒剤 3～4kg/10a  
(収穫30日前まで、2回以内)  
  
いもち病発生圃場では・・・  
コラトップ粒剤5 3～4kg/10a

キラップ粒剤 3kg/10a  
(収穫14日前まで、2回以内)  
※出穂10日前～出穂期にかけて散布適期

補完防除

〈本田初期〉  
○イネミズゾウムシ、イネゾウムシ ○黄化萎縮病  
・トレボン粒剤 2～3kg/10a ※降雨によりイネが冠水し、その時の水温が18～20℃の時に感染する。  
(収穫21日前まで、3回以内) ※冠水を避けるように排水に努める。  
※周辺のイネ科雑草を除草する。

○ジャンボタニシ

・ジャンボたにくん 1～2kg/10a  
(移植後～収穫60日前まで、2回以内)

※特裁の場合は・・・

・スクミンバイト3 2～4kg/10a

〈本田中後期〉  
○いもち病  
・オリゼメート粒剤 3～4kg/10a  
(初発10日前～初発時、収穫14日前まで、2回以内)  
・ブラシンフロアブル 1000倍 (収穫7日前まで、2回以内)  
※稲こうじ病に対する薬剤散布適期は出穂前8～18日

○紋枯病  
・バリダシン液剤5 1000倍 (収穫14日前まで、5回以内)

○ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類  
・トレボン乳剤 1000倍～2000倍 (収穫14日前まで、3回以内)

○イネクロカメムシ (6月上旬頃発生が見られる場合)  
・キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内)

備考

いもち病

葉いもち病は窒素過多や軟弱徒長気味の成長をし、日照不足で25℃～26℃の温度が発生の好条件。

紋枯病

窒素過多や密植または過繁茂となり高温(30℃～32℃)で多湿の場合に発生が多い。

カメムシ類

被害が多い発生田では必ず防除する。検査時に、着色粒(斑点米)が、中型カルトンに2粒以上混入していると格落ちする。

◎JA東とくしまでは、昨年以上の買い取りが販売ができるよう努めてまいりますので、1袋でも多くの出荷をお願いします。

◎出荷される米に関しては、生産履歴の提出は必須となりますのでお願いします。